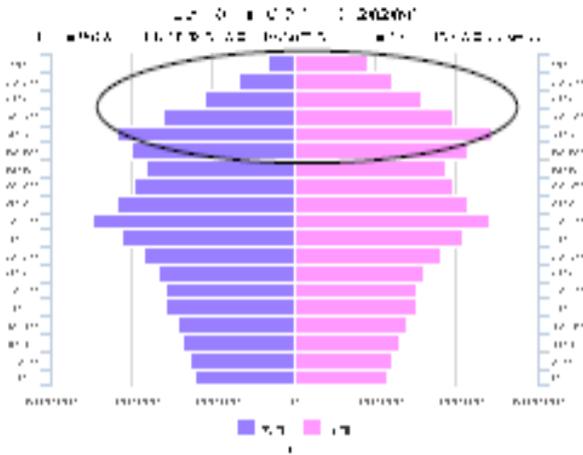


演題「在宅治療の実際」

中井 宏昌

現在の日本の人口分布です。2020年では人口全体の25%を60歳以上で超えます。



さらに、2030年には30%をも超えると言われて
います。

北欧のように健康長寿であれば大きな問題は起
きません。我が国ではいまだに健康長寿ではなく、
ただの長寿の人口の多さを告知することが多く見
受けられます。

これでは、医療費は莫大な金額が必要になるでし
ょう。

医者が「患者の希望を受け入れ心臓を止めること
は違法なのです」

最近では「終活」などといい、大きい社会現象として取り上げられています。

まず、団塊の世代の定年退職、そしてその子供世代がニートであることが多いそうです。子供は親の年金を使用し、親の購入した家に引きこもりのように住みます。なので親子共々お金がなく、親は有料施設には入所できない。子は親の面倒を見る、そして親が病気になる子供が介護するという。このままでは負の連鎖が続きます。

それでは我々歯科はどうすれば？

もちろん高得点なので保険診療を中心にやられている先生方は在宅診療に向かわれるでしょう。また、今までは施設に行って診るというケースが多くそこから広がってきましたが今後は、ケアマネージャーからの紹介などで1軒1軒を訪問する在宅診療が増加するでしょう。

オーラルフレイルという言葉は、歯科では盛んに用いられ、フレイルとは“弱った”とか“低下した”という意味を表します。要するに口腔機能およびそれらに関連する機能低下を防止あるいは改善するということです。

高齢者の口腔機能の回復および、口腔ケアの必要性を大きく前に推し進めていく必要があります。従来習った健常者相手の理屈や知識はあまり通用しないこと、そしてコミュニケーションの取れない患者とも対峙していかなければなりません。もちろんそこには歯科技工士さんたちにも一緒に現場で進める必要があります。これは私だけの意見でしょうか？みんなでもっと真剣に現実と向き合いましょう。また、誠実に患者と向き合い出来る限りの希望を叶えてあげたいと思っています。

簡単に接着の話として

1. セラミックスの特徴、金属の特徴（クリープ、応力緩和）これだけは知っておこう。
2. 接着といえども化学的に結合している訳ではなくやはり物理的な嵌合力でくっついていること
3. 生きた象牙質には水分があること。

演題「セラミック修復物の接着」

岩佐 努

歯科のセラミックスはここ 20 年くらいで急速に進化してきました。次々と新しく素晴らしいものが紹介され、多くの患者にもたくさんのお恩恵をもたらしてきています。これは歯科用のセラミックスだけが進化してきたのではなく、歯科の接着が急速に進歩してきたからに他なりません。接着性セメント、接着性モノマーやシランカップリング剤、リン酸エステル系モノマーなどのプライマーの充実がなければ今の歯科は成り立たなくなってきました。歯科技工士としての職責を全うするのであれば接着理論を理解し確実な接着を得られる修復物を製作していかなければならない。今回は僭越ながらラボサイドでの注意点などをお話ししたいと思います。